平成29年８月８日

各　　位

会　社　名　太洋物産株式会社
代 表 者 名　代表取締役社長　柏 原　滋
（コード：９９４１　東証ＪＡＳＤＡＱ）
問 合 せ 先　執行役員 総務部
役 職 ・ 氏 名　ｼﾞｪﾈﾗﾙﾏﾈｰｼﾞｬｰ　宮内　敏雄
電　　話　(03) 5333－8080

業績予想の修正に関するお知らせ

第３四半期決算と最近の業績動向を踏まえ、平成28年11月18日に公表した業績予想を修正いたしましたので、お知らせいたします。

記

● 業績予想の修正について

平成29年9月期　通期個別業績予想値の修正（平成28年10月1日～平成29年9月30日）

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	１株当たり当期純利益
前回発表予想(A)	百万円 22,506	百万円 272	百万円 174	百万円 150	円 124.83
今回修正予想(B)	24,000	460	390	350	263.63
増減額（B-A)	1,494	188	216	200	
増減率	6.6	69.1	124.1	133.3	
ご参考(平成28年9月期)	20,290	△434	△530	△508	△423.44

(注)当社は平成29年４月１日を効力発生日として普通株式について10株につき１株の割合をもって株式併合を行っております。これに伴い、前事業年度の期首に当該株式併合が行われたと仮定し、１株当たり当期純利益を算定しております。

（修正の理由）

当第３四半期累計期間における我が国の経済は、新興国を含む世界経済全体の景気が緩やかに回復している環境にあり、国内企業の業況等は好調を持続し、国内消費も持ち直しつつあるとされるものの、その実感が乏しい中で当第３四半期累計期間末を迎えました。

このような環境の下、当社の主要商材である牛肉につきましては、当期中の年末商戦、ゴールデンウイークにおいて外食需要の盛り上がりはあったものの、総じて消費が低調に推移し、取扱数量・売上高とも低迷いたしました。鶏肉につきましては、昨年末頃からブラジルからの輸入量の減少が顕著になり、価格は上昇に転じておりますが、第１四半期会計期間の販売不振分をカバーしきれず取扱数量・売上高とも減少いたしました。加工食品につきましては、タイ産を中心に外食産業向けは堅調に推移しているものの、中国産の加工食品が振るわず取扱数量・売上高とも減少いたしました。ただ、これらの売上高の減少に対し、生活産業部で取り扱いを始めたスペイン産の豚肉が大きく売上高を押し上げている状況となりました。

この結果、当第３四半期累計期間における売上高は、174億20百万円(前年同四半期累計期間比　10.0%増)となり、営業利益面では、外食向けステーキ用原料肉で利益が確保できたことや、低迷していた鶏肉

相場が上昇に転じたことで、利益を確保しやすい販売環境となっていることから全社的な営業利益は、４億６百万円（前年同四半期累計期間は 営業損失４億54百万円）、経常利益３億61百万円（前年同四半期累計期間は 経常損失５億28百万円）、四半期純利益３億18百万円（前年同四半期累計期間は 四半期純損失５億30百万円）と大幅な増益となる見込みです。

平成28年11月18日公表の平成29年９月期業績予想の修正について、第77期 第４四半期会計期間の市況予測を勘案したところ、鶏肉についてはブラジル産鶏肉の仕入価格が上昇に転じている中で、輸入量も増加が見込まれ相場の予測がしづらいこと、牛肉について８月１日より冷凍牛肉のセーフガードが発動されたことから今後の冷凍牛肉の需給予想が難しいこと等から、第３四半期累計期間と同様な状況を第４四半期会計期間に期待することは適わず、第３四半期の業績を踏まえて、売上高を240億円、営業利益を４億60百万円、経常利益３億90百万円、当期純利益を３億50百万円に修正させていただきます。

（注）本資料に記載されている将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

以　上